



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年11月1日

11月号・第142号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



Contents

§ § § § §

長井美知夫氏を偲ぶ……………	①②	やさしい昆虫講座⑦……………	⑫
多士済々……………	③	青垣春秋……………	⑬
Monthly Repo.ならやま……………	④	俳句百景……………	⑭
里山の今……………	⑤⑥	癒しの散歩道 & ならやま茶論……………	⑮
草刈機安全講習会……………	⑦	Galleryならやま……………	⑯
自然教室チームだより……………	⑧⑨	ならやま景観整備……………	⑰
里山体験・芋掘りと……………	⑩	行事案内……………	⑱
歴文研修会(壬申の乱の跡をめぐる)……	⑪	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記…	⑲

長井美知夫氏を偲ぶ

顧問

川井 秀夫

シニア自然大学校 創始者 長井美知夫さんが、去る8月21日ご逝去され、10月17日大阪 天満橋京町 新事務所会場で、しめやかに往時を偲ぶ「献花式」が催されました。当会から私を始め、阿部顧問・藤田会長、旧知の古川祐司氏、弓場厚次氏が出席し、最後のお別れをして参りました。



長井氏は前身であるシニア自然大学校の創始者として、今日の当校の隆盛の礎を確立され、大きな功績を残して来られました。

時代を先取りされた先見性、豪胆にして繊細な決断力と行動力、強者に向かう胆力、信念に満ちた卓越な持論、当校の草創期を共にした私としては、頼りになるボスとして、かけがえない牽引車であったと、往時の姿が忘れられません。

社団法人 大阪自然環境保全協会翼下の茶屋町の小さな事務所の一室で、入校手続きをしたのが初対面でした。小太りの体にシャツ一枚、土建屋の監督といった風姿で、場を間違ったのかと一瞬錯覚したのを憶えております。

いろいろありました。後年、協会の理事として共に東奔西走の日々でしたが、理事会では体制側の排他的な一部の過激な輩の圧力に屈辱を味わった事も屡々でした。

この頃、独立論が沸騰し、大阪駅のガード下の居酒屋で安酒を呷りながら、同僚たちと激論の日々が懐かしく思い出されます。

’02年、長井さんの冷静且つ適切な判断で、円満に協会と袂を分かち「シニア自然大学」として、新生の一步を踏み出し、今日の隆盛に繋がっております。

’01年。「奈良・人と自然の会」の創立総会には、来賓代表として力強いメッセージを戴き、後見人として絶大な信頼を寄せて頂きました。

当会の発展途上においても、赤字財政の危機には助成金をご援助を賜り、また

近時においては、大型助成の認定に際し、保護団体として快く理解を示され、当会の今日に至る大きな支えになった事が心に残ります。

後年、シニアの事業拡大の柱として、住友生命との受託事業「こどもエコ俳句」には、選者として協力要請を受け、快くお引き受けさせて頂きました。早八年経過致しましたが、近畿一円の小学校から七万句に及ぶ投句があり、年々広がりを見せております。文化面における先見性に富んだ長井さんの構想力にも、ただただ感服致しております。

自然界に誘導して呉れました貴方に、少しでも恩返し出来たのかと、今年も頑張っております。

今、訃報を受け衝撃は隠せません。もう少し生きていて欲しかった。何故なら前述した成長著しい奈良の活動現場を見て欲しかった。私の心残りの一つです。

しかし長井さん、貴方は信念に燃えて見事な半生を完結されました。「ありがとう」の感謝の念と共に、貴方の功績に万感の思いを込めて拍手を送ります。

同じ世代の男として、私も余命が見えて来ました。三途の川で鬼を集めて酒を飲みますか。

待っていて下さい。



長井美知夫氏を偲ぶ



長井美知夫会長 逝く!!

阿部 和生

シニア自然大学の前身「自然環境保全協会」で、星組(夜間)として参加、自然の大切さを学びました。その後里山講座も受講したものです。毎回の講座が「目から鱗!」このような世界があるのか?、と感激したものです。

一泊研修の際に、長井会長が、メモを片手にいろいろと問いかけてくれて、更にのめり込んでしまい今日に至ってます。「人は自分よりいいところを持っている。それをお互いに学び高めてゆこう」との呼びかけは、今でも至宝と思っています。多くの素晴らしい出会い・知人を得て、今の私があります。感謝の念で一杯です。

「偲ぶ会で」命の大切さを深く刻みました。
(星5期)

長井 美知夫さんの思い出

古川 祐司

長井さんとの出会いは、シニア自然大学時代で、高等科を終了する2004年の春、新しい研究科「自然と文化」を立ち上げた時のことです。創立メンバーは、後にシニア自然大学代表理事となる斎藤隆さん達の高等科仲間19人でした。年長ということで私が科の代表を仰せつかりました。「自然と文化科」の名前は長井さんの発案で、何でも自由にやれる研究科を、とのこと。そこで大いに風呂敷を広げて、自然と人間の係り合いに関することはすべて、歴史、文化、自然調査、都市問題、講演会など、幅広く手がけることにしました。その後、メンバーの努力のお蔭で、年々素晴らしい仲間が集まり、10年目の今では95人が在籍するシニア大の中で最大の研究科となっています。

その翌年の2005年の夏に、また長井さんから地球環境の講座を始めようと提案

があり、自然と文化科の有志で取り組みました。高等科時代にご縁のあった渡辺弘之先生(京都大学農学部名誉教授)に企画と監修をお引受けいただき「地球環境生態系講座」がスタートしました。京都大学の現役教授クラスを揃えた年間20回の講座は、内容が素晴らしいうえに、海外研修旅行もあって、毎年150人が集まる人気講座になりました。私自身、3年間にわたってお世話させて頂いたお蔭で、森林生態系論、里山論、林学、など貴重な勉強をさせて頂きました。

シニア自然大学での6年の後、以前から所属していた「奈良・人と自然の会」の活動に専念することにしました。丁度、当会が奈良県有林の景観形成事業に取り組むことになり、「ならやまプロジェクト」の責任者としてその立ち上げにかかわりました。これまで学んできたことを実践する機会と場を与えられて大いに張り切ったものです。

長井さんも私も昭和10年生まれの戦後焼跡派で、ゼロからスタートして明日の豊かさを目指して頑張った世代です。そして定年・・・昔は「余生」と言われた時間ですが、平均余命が驚くほど長くなった今日では、前途に横たわる長いシニアライフを如何に過ごすべきか、と言う重い命題に直面することになります。「シニア自然大学」は、これに対する提案で、当時のパイオニア的な存在でした。バブルが崩壊した後、日本社会の原点回帰の流れに機敏に対応して、環境という視点を切り口にして、次なる社会への架け橋となるシニア・リーダーを育てることを事業とする試みは、誠に時宜を得ていたと言えます。長井さんは常に、政治オンチになるな、社会情勢オンチになるな、と訴え続けて終身現役を通されました。私の好きな論語の一節、「発憤忘食 樂以忘憂 不知老之將至」に、情熱の人、長井美知夫さんを思い起こすこの頃です。

心からご冥福をお祈りします。

多士済々

編集10年

勝田均さん・緑さん

スポーツはテニス、絵画は抽象画・油絵など、野鳥観察はお手の物、そば道場も常連、旅も大好きと多様な趣味をお持ちの「勝田均さん」には、長く長く会報誌の編集をなさって下さいました。 ▼ (ソバ打ち研修 真剣な眼差しで！)



「奈良・人と自然の会」への参加は勿論と、超多忙な毎日をご過ごして来られました。日程に海外旅行と言う1ページが加わっても、常に「編集」を心に留め優先させながら、10年に亘る長い年月、ご自分に縛りを架し、滞りなく会報誌の編集をやってくださいました。振り返りますと、大変なご負担を掛けてしまったと、感謝で一杯です。引き受けた責任は果たすという使命感をお持ちでした。「あとの編集者 考えてよ！」との要請後も、なお数年お願いしたのです。原稿の手配・企画立案・編集、イラストの挿入と月末は奥様「緑さん」をもパートナーとしてしまっ、否応なく生活のリズムの一部とまでなってしまうと思います。「マナーを防ごう」と外部の評論を求められた積極性も、やがて紙面に反映され、現在の編集者「鈴木末一」さんに引き継がれるまで全力投球でした。



現在ホームページ ご担当の坂東久平さんの尽力により、これまでの会報誌が、すべて、いつでも閲覧・開く事が出来るようになっていきます。これは勝田さんご夫妻の実績をたたえる記念碑であり、同時に「会」の歴史の証でもあります。



▲ (野鳥観察会の指導 旗を持つ人)

野鳥観察会もリード、下見の野鳥を見つけるととても良い顔をされていました。個人としては、由緒ある龍田川、三室山等をフィールドとして継続した調査をされています。その実績が知られ 去年は、斑鳩町公民館で地域での発表をされました。大変好評で今年春に聖徳太子資料館にて再度講師として招かれ発表をなさっています。その際「イカル」を多くの人々に知って頂き「斑鳩町の鳥」としての登録を目指す！という活動の心もこめておられます。仄聞すれば、この11月にも3回目の講師要請が来ているそうです。勿論「イカル」もアピールされることでしょう。早朝の有名な竜田川から南進し、三室山までバードウォッチングを日課としておられます。「これまでの蓄積の整理ができたよ」と嬉しい発言ですが、更なる実績が上積みされてゆく事でしょう。益々のご活躍を心より祈ります。

(阿部和生)



Monthly Repo.ならやま

◆9月24日(火) 晴れ 25名+1名

奈良県林業機械化センターの講師による刈払機の安全使用に関する講習会が、午前中のボランティアセンターでの講義に続き、午後、機械の分解・メンテナンス方法・安全使用の実地講習が行われた。

◆9月26日(木) 快晴 52名+2名

景観サポーター体験実習のお礼に県風致景観課から担当者がみえた。ソバの花が満開。

里山Gは、第5地区の整備を進めているが蔓草の処理に手間取る。

農園Gは、ニンニクの植えつけ、ダイコンの土寄せと施肥。

景観Gは、ならやま会館前の竹林の整備とBC周辺の草刈り。ならやま池の生物調査と湿地の除草。レンゲの播種・山野草花壇の除草。

◆10月3日(木) 曇り 59名+8名

奈良フェニクス大学の体験ツアーの受け入れ、畑作業・竹伐りの実習と里山林の案内。

今日から味噌汁サービスが始まり、焼き栗、サンマの特別サービスもあった。



里山Gは、しいたけ栽培原木の天地返し。第5地区整備。農園Gは、ニガウリ・サンドマメの後始末。景観Gは、竹林の整備と彩り森の除草。ヒガンバナの球根植えつけ。アジサイ園の除草。梅林へのチップ撒きでは、すでに大きく生長したカブトムシの幼虫が見つかる。



◆10月10日(木) 晴れ 54名

ボランティアセンターの紹介で新入会員が1名入会。FMラジオを使った通信設備のテストが完了。

里山Gは、第5地区の竹林整備。農園Gは、ナス・ピーマン・シシトウ等の撤去。これで来年までナス・ピーマンが口に入らなくなった。景観Gは、彩の森・池周辺の除草。池の生物調査。ヒマワリの撤去。

◆10月17日(木) 晴れ 49名+3名

シニアー自然大学から1名実習参加。近畿大学の学生がバラタナゴの調査。

昨日の大雨の被害はなし。フジバカマにアサギマダラが飛来し、ひらひら。各グループは19日の芋ほりイベントに向けて準備活動。里山Gは、遊びの広場で自然木を使った遊具の準備、午後は第5地区の竹林整備。

農園Gは、ダイコン・シロナの間引きと土寄せ。赤米の稲刈り。景観Gは、彩の森・池周辺の除草。

ミョウガの植えつけ。第5地区のソバが熟したので刈り取り。



◆10月19日(土) 曇り一時小雨34名+64名

佐保台小学校、大阪・摂津市の三宅柳田小学校の児童と父兄が来られ、午前中に芋ほり体験。午後はビオトープの生物観察と丸太切りで子ども達に喜んでもらった。

(木村 裕)

里山の今

ならやま花だよ!

山中笙子

10月17日(木) この季節、ならやまの大地に育った栗や柿、アケビの実をご馳走になり、リース、工作に使いましょうかドングリも沢山落ちています。水辺ではタデ科のミゾソバ(別名ウシノヒタイ)が群生し、ピンクの金平糖の様な花が、ならやま人の目を楽しませてくれます。茎の先に5mm程の小さな花を10数個まとまって付け、上部がピンク色の花びらに見えるのは花被(萼)で、花後もそのまま種子



▲瘦果 ▲ミゾソバ ▲花

を包むので花期と果実期の区別が付きにくいそうです。葉は牛の顔に似た形で、茎には触るとざらつく刺があり他の植物に寄りかかる。瘦果は3mm長の三稜形で先が尖り、つやのある黒茶色をしています。秋を感じさせてくれる花の一つです。

【水辺の花】 ミゾソバ、イヌタデ、ボントクタデ、チョウジタデ、イボクサ

【草花】 ススキ、アメリカセンダングサ、ヨモギ、ヒナタイノコズチ、ヒカゲイノコズチ、ヒメジソ、ヤブマメ、ヤブツルアズキ、エノキグサ、セイタカアワダチソウ、ザクロソウ、カナムグラ、フユノハナワラビ、ホシアサガオ、カラスビシャク、シロバナサクラタデ、ツリガネニンジン

【草の実】 ツルアリドオシ、ヤマノイモ、ヒヨドリジョウゴ

【木の花】 萩、コウヤボウキ

【木の実】 アオツヅラフジ、ヒサカキ、リョウブ、コナラ、クヌギ、ヤブコウジ、アオキ、センリョウ、センダン、チャノキ(実と花)

【花壇】 クジャクアスター、百日草、ヒメツルソバ、ノコンギク、シュウメイギク、ホトトギス、フジバカマ、コスモス

ペタキン日記 (18)

羽尻 嵩

3. COD〔化学的酸素要求量〕先月号より・続く

COD値は有機物が多い水ほど高くなり、酸欠状態を測るめやすとなるが、還元性の無機物によっても高くなる。3ppm以下→サケ・アユが住める。5ppm以下→コイ・フナが住める。10ppm以上→汚水。「ならやま」では、6ppm以下を目指してきた。

以下が昨年9月からの「ならやま」のCODです。場所は、(A) 側溝、(B) 東池、(C) タナゴ池、(D) ならやま池。数字はいずれも“ppm”を示す。

◆〔2012年9月2日〕(A) 6、(B) 8〔入水少し〕(C) 7、(D) 8。 ◆〔10月1日〕(A) 7、(B) 7〔入水なし〕(C) 7、(D) 7。

◆〔11月2日〕(A) 5.5、(B) 7 (C) 7 (D) 8。

◆〔12月2日〕(A) 3、(C) 4、(D) 7。

◆〔2013年1~3月〕いずれも、ほぼ2~3で低い。

◆〔5月7日〕(A) 4、(B) 7〔入水なし〕(C) 5、(D) 5.5。 ◆〔6月2日〕(A) 4、(C) 5、(D) 5。 ◆〔7月2日〕(A) 5、(C) 6、(D) 6 ◆〔8月1日〕(A) 8以上、(C) 8以上、(D) 8以上。(この値の原因は

にわか雨直後数値であり、その後の池の水質に関係ないので今は触れない)。

◆〔9月12日〕(A) 5、(C) 7.5、(D) 8。

なお、昨年の2012年5~8月の「ならやま池」での自然大学校水生生物科の調査ではCOD値は8が記録されている。

以上の結果からみると、側溝では、昨年の10月1日の7を除き(この頃、上流から大量の粘土質の水が流入した)良好であったCOD値が、「ならやま池」では昨年の5月から12月初めまで、「タナゴ池」でも(昨年9月からのデータしかないが)11月の初めまで良くなかった。しかし、**本年度は、5月以降も8月のにわか雨直後を除き悪化していないことが見て取れる。**



その原因は、水深を深くしたことや葎・ガマの繁茂やスジエビの増加なども考えられるが、COD値低下の時期がアオミドロの減少の時期と重なっていることから、**最大の原因は、ヘドロの減少だと思われる。** <完>

ヌルデミミフシ

菊川年明

ならやまの自転車道沿いのあちらこちらに、ヌルデの木が生えている。ベースキャンプの近くでも見かける。ウルシやハゼの木に少し似たところのある木である。

ヌルデの木の枝先に、不思議な形をした実のようなものが、付いているのを目にすることがある。これにはヌルデミミフシという名が付いていて（下写真）、大きいものは幼児の握りこぶしほどのものもある。正体は虫こぶ（虫癭＝ちゅうえい〔注〕）で、ヌルデシロアブラムシという微細な昆虫の仕業である。虫こぶを切開すると、中にはゴマ粒ほどの大きさのヌルデシロアブラムシが群がっている。

〔注〕昆虫の産卵・寄生による奇形発育部分

ヌルデシロアブラムシというのは、大きく分ければカメムシのグループに属し、花などの茎にびっしり群がって養分を吸い取る嫌われ者のアブラムシ（アリマキとも呼ばれる）の同類である。

この虫こぶには、タンニンが高濃度で含まれているので、たいへん有用な代物で、これを乾燥させたものは五倍子（ごばいし）と呼ばれ、わが国では従来、漢方薬、皮なめし剤、染料として利用されてきた。薬剤としては下痢止め、整腸剤、止血剤、解毒剤などに利用されていたそうである。黒色の染料にもなり、インクの原料として用いられたほか、昔の既婚女性が用いたお歯黒の原料でもあった。

ヌルデはウルシ科に属する植物で、触れると体質によっては、ウルシかぶれの症状が現れるというから、注意が必要である。

**ならやま自然観察路**

菊川年明

私は平成8年に、大阪の北部から奈良市に転入し、現在私たちが「ならやま」と呼んでいる丘陵は、直ぐに昆虫観察のフィールドの一つになりました。

しかし、付近の道としては、現在黒髪山キャンプフィールドになっているところの前を東西に結ぶ道と、自転車道を除いては道はなく、現在佐保自然の森になっているところは、草茫々の見苦しいところで、北行の道路はこの先で事実上行き止まりでした。

何とかこの先に抜け道を探し、丘陵の南北間を横断してみたいという思いが募り、幾たびか試みましたが、果たせませんでした。

平成19年の早春、現在のベースキャンプ付近の山中に、踏み跡のようなところを見つけましたので、丘陵の北側から恐る恐る山中に入り、南へ辿りますと、佐保自然の森のところへ抜けることができましたので、「やったー」という気分でした。このときは既に本会は、この地を拠点に活動を始めていましたから、山中の踏み跡は、会の人たちによるものであったかもしれません。

この年の春、ある機縁で本会に入会し、より足繁く山中を歩くようになりました。現在ならやま自然の森と名付けている山道も、この頃には存在がわかり、ものすごく笹に覆られていましたが、ときどき踏み込んでいました。

翌年の晩春、その一隅で**オオタカ**の巣が見つかり、子育てをしていることがわかりました。現在、オオタカの辻と名付けている場所の近くで、この名称もこれにちなんだものです。そのほか、かなり珍しい昆虫や植物にも巡り会っています。

ならやま自然の森の尾根道を歩いていてよく思うことは、この小さな尾根が淀川水系と、大和川水系を分ける分水嶺であるということです。北へ落ちる水は木津川を経て遠く淀川へ注ぎ、南へ落ちる水は大和川へ注ぎます。ここから始まる水の旅にも思いが及びます。

草刈機安全講習会

ならやまの景観グループは景観、ビオトープそして環境に分かれ、日々の活動に励んでいます。いずれもならやまの良好な環境を維持するための地道な活動です。

そして景観はならやま全体の清掃活動やゴミ拾い等も行いますが、活動の中心はなんといっても草刈り。この広い地区全体をいくつものブロックに分け、年3～4回草刈りをしながらならやま全体の環境整備と保持に努めています。そのために毎回のメンバー募集の声かけから当日の作業場所や内容の打ち合わせはもちろんのこと、機械の始業点検・後始末にも気が抜けません。また、燃料や消耗品、工具類の補充・点検もかかせず、結構気を遣うセクションだなあ、と最近やっと気づくようになりました。そしてその仕事量の多さ。一日が終わる頃にはほんとぐったり、という言葉がぴったり当てはまります。これはもちろん他のグループでも同じことですが。・・・・・・

それでもかって1～2人でほぼ全ならやまの草刈りをやっていた頃と比べれば、メンバーの人数も増え、加えてメンバーの草刈り技術や意欲は見違えるよう向上し、ならやまの景観は一段と向上したように思えます。メンバーに感謝、感謝ですね。

しかし、それに伴っていろいろな問題も散見されるようになったこともまた事実。特に作業自身や周りの人への機械を使うことによって起こる事故を避ける安全意識が欠如したり、やまのそこそこに潜む危険を感知する意識の希薄化も目立つようになりました。また機械が増えてきたためについつい保守管理がおろそかになり、機械が調子悪くなってもそのまま使用し、機械が破損、最悪の場合は壊れてしまう、ということも起こりました。こういった状況を踏まえ、安全で安心な草刈りが全員できるように、と会では去る9月24日に奈良県林業機械化推進センターから講師の先生に来ていただき「刈払機の作業安全衛生講習」を開催しました。

参加者は25名。午前の講義では1、刈払機の作業安全 2、蜂刺されの予防 3、熱中症の予防対策 4、刈払機の点検・整備の方法 等について学びました。いずれも機械を作動させたり、作業を行う際には、絶対に知っておかねばならないことばかりでしたが、プロから教えられてみて、いかに自己流でやっていたか、また不十分な理解しかしてなかったか、反省することしきりでした。

特に、これから活動期を迎える蜂への理解と対策、作業をはじめるに際しての簡単だが重要な準備や心がけについては本当に勉強になりました。あすからの活動に際してこういった内容が働く知識となって蓄積していくように改めて願いました。



午後からは、普段あまり触れたこともない箇所や普段点検をしていながら不十分などの点検・整備からスタート。ちょっと手を加えるだけで調子をあげる機械を目の前にして改めて機械を保持するとはどういうことなのか、実感しました。また機械の一番大切な草刈り刃についても細かく教えていただきました。そのあとで一人ひとりが実際に機械を動かしながら、基本を学び直しました。

1日を通しての研修。大変だろうな、と思っていましたが、楽しい雰囲気の中、充実した中身になりました。

ならやまの環境整備にたくさんの会員の協力を得ながら頑張っていくぞ、と改めて思いました。
(八木順一)

自然教室チームだより①

校庭の自然観察会

月ヶ瀬小学校

10月2日、月ヶ瀬小学校の初めての放課後子供教室主催の自然教室が開かれました。梅林で有名な地ではありますが、シーズンオフとあって、小学校は静かで緑豊かな環境にありました。全校生徒56人、中には一クラス3名という学年もあるそうです。

観察は、1年から6年の子どもたち22名を縦割り3班に分け開始。ポイントは5箇所。マテバシイの木の下でどんぐりの学習。



クイズの答えに思案顔。栗がどんぐりの仲間という説明に驚きの声。何より、予め用意しておいたマテバシイの試食に興味津々。「クリみたい」「おいしい」と歓声。

オオモミジの種に「プロペラみたい」と恐竜好きの男児の声。ジャングルジムのでっぺんから種とばし。



鏡を使った不思議な散歩は大好評。太陽は雲に隠れ、青空。頭上には桜の木とうろこ雲。絶好の散歩日和。子どもたちはおっかなびっくり歩を進めながら口々に歓声を上げていました。予定外で雲梯（遊具）のトンネルをくぐった班もありました。

不思議な葉っぱでは、カタバミの葉で十円玉磨き。次は、アオキの葉っぱに文字書き。切手を貼った実際のタラヨウの葉のはがきの見本にビックリ。近いうち、月ヶ瀬の郵便局から、どこかに、葉っぱのはがきが届くかも知れません。

最後は、和室に移り、工作の時間。押し花の葉の制作。思い思いの花で、世界で一つの葉を楽しそうに作っていました。中には3つも作った子もありました。

月ヶ瀬小学校の子どもたちは、のびのびとして、元気でした。
(櫻木晴代)

小学校校庭の自然観察会 見学のお誘い

自然教室チームでは放課後教室や授業の時間を使って校庭の自然観察会を行っています。児童の皆さんと一緒に校庭の植物の不思議に触れ、また自然遊び等を通じて自然に親しむひと時を過ごしています。

今年も以下の通りあと3回予定しています。どんなことをしているのかなと興味をお持ちの方は是非見学にお越しください。

- ◎鳥見小学校 11月20日(水)
- ◎富雄第3小学校 11月27日(水)
- ◎帯解小学校 12月4日(水)

なお、ご希望者は平岡または、倉田までご連絡ください。

自然教室チームだより②

自然観察会の報告&予定

ならやま自然観察会実施報告

10月8日 自然教室チーム観察会はならやまの自然の魅力を求めて、パトロール班守口さんに案内していただきました。

B.C.で朝の挨拶のあと「彩りの森」を經由して「ならやま自然の森」に入り、「コシダの辻」、「オオタカの辻」を通過して「第5地区」に行きました。「松山平」で一休みのあと「ならやま最高峰」に登り、すぐに「谷の出会い」へ向けて急降下、続いて「赤岳口」、「赤岳」を通過して「ならやま里山林」の「鳥観の丘」に出て、「遊びの森」を經由してB.C.に帰るというコースでした。

道々いろいろなお話をしていただきました。ツルアリドオシ、ヤブコウジ、マンリョウ、カラタチバナ、センリョウという「お金の実の木」の説明、カラスザンショウ、ヒヨドリバナ、ヤクシマオナガカエデ、タラノキの観察、アオキの雌株に関する国際交流の話、竹中半兵衛のヤマザクラの話など興味深いことばかりでした。



またコバノガマズミ、ウスノキ、アケビなど食べられる果実がたくさん見つかり、更にはヤマノイモのむかごなどもいっぱいになっていて、欲しいなと思ったことでした。

その一方でキノコがびっしりついた木やカシナガにやられたクヌギなどを見て痛ましく感じました。

参加者は一様に楽しい観察会だった、参加して良かったという感想でした。

特に

★変化に富んだ様々な自然の姿があり、また豊かな植生が実感できてよかった。

★この豊かな自然を守るために たくさんの方が努力されていることに敬服した。

★みんながもっとならやまの自然を楽しむ機会を設けていく必要があるのではないかな。

といった感想が多数ありました。

その後4人の方のインプリ、並びにネイチャーゲーム「森の福笑い」を実習し楽しい一日を終わりました。(倉田 晃)

11月の自然観察会

明日香の植物を訪ねて

下記により実施いたします。参加は自由です。自然観察に興味をお持ちの方は奮ってご参加ください。

1. 日時：11月6日(水) 10時30分～3時
2. 場所：石舞台古墳～上居方面
3. 内容：明日香の植物を訪ねて
4. 案内：飛鳥里山クラブの吉田ミドリさん
5. 持参物：昼食、飲み物、観察用具、雨具
6. 集合：石舞台入り口前休憩所に10時30分
7. アクセス：奈良交通バス

近鉄橿原神宮前駅東口2番乗り場 飛鳥駅行 9時41分発～石舞台10時15分着(360円) 乗用車の場合は石舞台地区駐車場(無料)と石舞台駐車場(500円)がある。

8. 雨天：会の基準による。(前日夕方7時前のNHK天気予報で午前の降水確率60%以上は中止)

9. 担当：倉田、川口

12月・自然観察会のお知らせ

下記の通り実施します。自然観察に興味をお持ちの方は是非ご参加ください。参加は自由です。

1. 日時：12月17日(火) 9時30分～15時頃
2. 場所：山の辺の道を歩く(三輪～崇神天皇陵)
3. テーマ：初冬の自然を楽しむ
4. 担当：小田、倉田

里山体験・芋掘りとおおきくおもしろい

前日は終日曇り空、しかも当日の降水確率は50%。これで果たしてできるのか、といった心配通り、朝から雨。しかし、行くだけは行こう、と思いながら「ならやまベースキャンプ」まで行きましたが、こんな心配は吹き飛んでしまいました。

佐保台小と大阪の三宅柳田小併せて36名の児童、そして引率者や当会サポーターを加えて90名近い人数が、狭い「ならやまベースキャンプ」に集まり、熱気でムンムンの一日でした。

最初に開会式。ここでは初めて顔を会わす両校のコーディネーターから各校の紹介があり、お互いの学校への理解を深めました。また、普段過ごしている環境とは違った中で過ごすのに必要な注意についても話がありました。

そして本日のメインである最初のプログラム、芋掘り。最初は交互に山遊びと芋掘りをする予定でした。悪天候のためそれはかなわず、両校一緒に芋畑に入り芋掘りをする事になりました。最初、こんなに多くの人数が一度に畑に入り、芋掘りをするのは大変ではないか、と案じられましたが、それも杞憂に終わりました。つるきりや石拾い、そしてお待ちかねの芋掘りまでに、徐々に子供たちの歓声は高まるばかり。特に土の中から顔を出す芋の大きさには皆驚いた様子で、中には2kg近い大物もありました。そのあとは掘った芋やつるでのコンテストです。一番重い芋は、一番長いつるは、一番面白い形をした芋はどれ、などと考えながらそれぞれシートに並べていきます。

そのあとで表彰式を行いましたが、手作りの木の実で作ったメダルも、全部の班に行き渡り、皆満足顔でした。やはりこういった経験は、思い出に残ることでしょうね。

昼食後は、各校交代で丸太切りとならやまの散策をしました。特にならやまの散策では結果的に子供たちは、散策するのでなく、池の周りを離れません。池の中に網をいれてかき回したり、バケツの魚やエビに手を伸ばしたり・・・。本当に泥まるけになった児童もいましたね。散策など念頭になかったのでしょう。



また、丸太切りでも大きい児童も小さい児童も普段やったことのない活動にチャレンジ。必死なそして満足気な顔が皆に共通していました。いずれも30分という時間的な制約の中での活動・・・、本当にもったいな、と実感しました。時間をもっと考えるだけで、もっと充実した活動になるのでは、と思いながら、こういった体験が将来必ずどこかで生きてくるのではないかと、とも考えました。その証左が児童の生き生きした表情であり、目でもあるのでしょう。

そして閉会式。帰る時間を気にしながらの進行でしたが、また機会があれば来てね、とまとめました。その際に配られた芋や焼き芋もいたく気に入られたようです。特に芋は重かったのでは・・・でもこの重さが今日の満足の重さなのでは、と思いました。

この会の準備や実施、そして後片付け等にも多くの会員さんにご協力頂きました。有難うございました。次回こそ、晴天の下で児童を楽しませてやれたらな、と実感しています。



(八木順一)



歴史研修会

壬申の乱の跡をめぐる



9月25日、残暑が残るが秋晴れの中、歴史探訪に出発。午前8時バス満杯の26名、遠近を厭わずの参集でした。歴史には「壬申の乱」は扱い小さく、天武天皇即位後の記述が大半です。ご参加の方々は 知見をお持ちで熱意を感じました。私は前夜のにわか勉強での参加で心細く乗り込みました。資料が配られ、造詣の深い杉本さんの解説、万葉歌の朗詠、一気に1300年前の世界への誘いでした。天智天皇と共に、大海人皇子は長く政治の中心にあり、直轄領が美濃の国であった事等を知ると、吉野からの遠い迂回の道のりが腑に落ちたものです。

多賀SA休憩後は、森さんによる「行路メモ」の説明、懸命の吉野への脱出、伊賀越え等の驚異的な1日行路。兵を集めつつの地盤とする豪族への働き掛け、皇子達の合流、不破ノ関での指揮・大津への進軍等が語られました。

不破ノ関資料館に到着。史跡ガイドの細見さんが出迎えてくれました。「壬申の乱」の探訪の方は、知識が深くて…と言っておられたのですが、次々とエピソードが語られ名解説が続きました。あちらこちらを見学、瞬く間に時間が過ぎてゆきました。目の届く道路や石垣等真っ赤なヒガンバナが咲いていて、周囲の景観とマッチして素晴らしい景色です。

「藤古川」は小さな川ですが、1300年前に対峙した頃は、かなりの深さであったでしょう。その兩岸の集落は、戦乱の後、川を越えての結婚・縁結びは近世まで禁止されていたようです。対峙した二つの勢力が、「不破ノ関」で激戦を展開したという記述は、日本書紀にはないようですが、地域の厳しい掟は厳しい怨念を残したのでしょうか。「ゴー」と新幹線が走り抜け、在来線、名神高速道路と主要幹線が、今もこの狭隘な交通の要所を行き交っていて、「不破ノ関跡」の感慨から現実に戻されます。



(不破ノ関資料館 ビデオ解説を見る↑)

昼食後、戦勝後も指揮を執ったと言われる「野上行宮跡」を偲び、桃配山で「関ヶ原の合戦」へと結びつきます。石田三成陣所からの俯瞰は、不戦や寝返りが戦況を変えた事を実感させます。大海人皇子も家康公も経験豊富、その上何か特別なオーラがあり、「人間力の差？」が左右したのではと感慨深いものがあります。天武天皇は、天皇の地位を確立させ、伊勢神宮を格上げし、律令の制定事業に着手と、国家支配を固めた偉業の人だったのでしょう。岩本先生の補説を耳にしつつ、柔らかな西日に向かってバスは快走し、夕刻予定時刻に帰着し満足感溢れる旅でした。

(阿部和生)

イモムシごろごろ(やさしい昆虫講座-37)**木村 裕**

イモムシ（芋虫）をご存知でしょうか？ 文字の通り、サツマイモやサトイモなどの芋類によく発生する虫です。

肥満児と言えるほど丸々太り、人差し指くらいの太さがあり、お尻に1本の角があるのが特徴です。体の色は緑色のタイプが多いですが、黒色、褐色、黄色などのタイプもあります。同じ種類であっても体色の異なるものがあります。体の側面に目玉のような模様をあしらったおしゃれ？な虫もいます。



しゃなりしゃなりと歩く姿を見ているかぎり、温和な虫のようですが、力は非常に強く、気に入らないと激しく体を振り動かします。

住処となる植物は、野菜、花、樹木など多種多様ですが、談合したのか餌植物は虫の種類ごとにうまく振り分けられています。あれもこれも欲しいと言う欲張りな虫はいません。

出現は地から湧き出したのか、空から降ってきたのか、突然起こります。昨日までいなかったのに今朝見ると大きなイモムシが葉をもりもり食っていたという具合です。本当は少し前から発生していたのですが、体が小さくて食べる量も僅かであったので皆さんが気づかなかっただけです。卵から孵化して何度か脱皮しながら大きくなりますが、最後の脱皮で一気に体が大きくなり食べる量も増えることから発見につながります。

皆さんが気持ち悪いと感じるほどに大きく成長すると、餌場を離れて地面へ降り、体を伸び縮みさせながら土の中に潜り込みます。やがて地中で周囲の土を押し固めて空洞を作り、その中で変身して赤褐色の蛹になります。

この蛹の状態で冬を越し、翌年餌となる植物が葉を茂らせ、食い頃になった時期を目がけて成虫の蛾となります。



成虫は大きな蛾で、蛾の仲間内では大きさの点では大関格です。胴体は非常に太く、丈夫な三角翼の羽を持っています。ジェット機タイプと言えるでしょう。その体の太さからかスズメガ（雀蛾）と呼ばれています。夜行性で夜になると目をきらきら光らせてわが子の餌になる植物を探し回っています。

卵は丸い球で、仁丹よりも大きく、透明～淡緑色、母親の蛾は餌の植物の大きさを勘案して1粒ずつ葉の上に産卵して行きます。幼虫が餌不足になるほどの沢山の卵を産むことはありません。

よく発生する代表的なものをあげると、

セスジスズメ：羽によく目立つ白い筋があります。幼虫は黒色タイプで目玉模様があり、サトイモ、ホウセンカ、ヤブガラシが好物です。

エビガラスズメ：胴体にエビのように横縞状に赤紋があります。幼虫は緑色、黄褐色、黒色タイプなどいろいろあり、サツマイモ、アサガオが好物です。

メンガタスズメ：胸の背面に人の顔のような模様があります。幼虫は緑色タイプが多く、ナス、ダチュラ、ゴマなどが好きです。

オオスカシバ：羽の鱗粉が全て落ちて透明です。幼虫は緑色でクチナシの葉のみを食べます。



『鏡』と『紙』のおもしろ起源

歴史文化クラブ 川井 秀夫

【鏡の起源】

最古のそれは水鏡（水面）に遡ります。
チンパンジーなどは既に鏡映認識を持ち、毛繕いに役立てたと言います。

人間界においては、古来極めて神秘的なものとして、単なる化粧用具としてよりも、祭祀の道具としての性格を帯びていた様です。

水鏡と金属鏡しかなかった時代、鏡像はおぼろげなイメージに過ぎないとされていました。

近代になってガラス鏡が発達すると、シュピーゲル（ドイツ語）・ミラー（英語）と言う名を冠する新聞が登場する様になり「鏡のようにはっきりと世相を映し出す」と名称化されて行きます。

鏡は鑑とも書き、人間としての模範・規範を意味します。日本語でも鏡は望遠鏡・拡大鏡など同じ鏡と言う字を用いています。

【日本の鏡】

古墳時代、邪馬台国の卑弥呼が魏の王から銅鏡（神獸鏡・三角縁神獸鏡）を贈られた事はあまりにも有名です。

鏡が割れると不吉としたり、鏡台にカバーを付けたりする僧侶は鏡の霊力に対する観念が、生活習慣の中に根を下ろしたことを示します。また鏡の神秘性を、餅や酒などの供物にも込めた経緯があり、現代でも、鏡餅や鏡開きなどの習慣にその姿を見る事が出来ます。鏡の語源はカゲミ（影見）、カカメ（カカは蛇の古語、つまり蛇の目）であると言われています。

日本に最初に伝わったのは紀元前（中国前漢時代）と言われます。弥生時代から古墳時代にかけて中国の後漢・三国・六朝の鏡が沢山入り、有力な豪族たちの宝物や祭事の器として珍重されました。

古墳時代には日本製の鏡が登場し、中国の文様を模倣したものが3～4世紀に作られ、これらは鏡作部の工人が鑄造技術を創出して製造を始めたと言われます。

【紙の発明】

紀元前2世紀頃、中国で発明されたと考えられ、麻を原料とした平滑性の悪いもので古墳から発見されています。日本の縄文時代の頃でしょうか。

西暦105年。蔡倫（ツワイリン・さいりん）と言う中国人が樹皮・麻ボロ等を原料として石臼で砕き、水で梳く方法を考案しました。今の和紙の製法とほぼ同じです。

紙は写生に適したものとして広く使われました。

【紙・日本へ】

610年。高句麗の曇徴（とんちょう）と言うお坊さんが伝えたと言われているようですが、2世紀頃には製造法が伝わる以前に入ったと言う説もある様です。

奈良時代には改良が進み、702年。楮（こうぞ）を使った完成度の高い和紙が正倉院に残されています。原料も三桮（みつまた）雁皮（がんび）など高級化して行き、京都には「紙屋院」と言う官立の製紙工場が出来ますが、鎌倉・室町までは一般の人々には手の届かないものでした。

【紙・庶民層へ】

最初、写経にだけ使われていたものが、平安期には貴族の間で和歌・漢文・書など特権階級のものでしたが、江戸時代にはコストの低減から庶民の生活に浸透し、農民の副業として紙漉きが各地に広まり、傘屋・提灯屋・障子屋・造花屋・瓦版・カルタ・浮世絵など様々な文化が発展して行きます。

この頃、古紙を集める「紙屑屋」が増え、古紙回収から再生紙まで、現代のリサイクルが日本に成立していた事に驚きを隠せません。

色々に関連事項がありますが、私もこの機会に大いに勉強になりました。また機会があれば・・・。

歴史クラブの特別企画。『壬申の乱』の古戦場を巡り、関ヶ原の陣場野を駆ける。

薄が穂を伸ばし、曼珠沙華の深紅の色が印象的。兵の夢の跡を堪能する。

今回は不破の関・関ヶ原の俳句が多く寄せられた。

壬申のいくさの色や曼珠沙華

古川祐司

藤古川辺りは最大の決戦場。川が血の色に染まったと言う。曼珠沙華の色に見立てた所が手柄。秀句。

益荒男の塚守る杉に天高し

古川祐司

大友皇子の首級が眠る。時空を越えて三本杉が聳え立つ。敗軍の将、何を語るや。戦は歴史を作り新しい時代を生む。

赤光を天に放ちて曼珠沙華

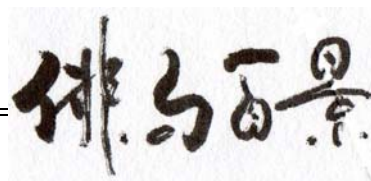
鈴木末一

真紅の花の色。光りの様に眩しい。死者の雄叫びが聞こえる様だ。天の青、地の紅、色なき風が秋を演出する。

道祖神を覆い隠して彼岸花

鈴木末一

野仏に背丈を越す彼岸花は供花か。仏が哄つて。秋の野道は日本の原風景。絵画を見る様なイメージが広がる。



監修 川井秀夫

秋風に身をゆだねつつ不破の関

八木順一

古代と戦国の旧跡を辿る。昔日に思いを馳せ、現代の平和を噛みしめる。秋風が背を押す充実のひと日。

里山に何事ならむ秋刀魚の香

西谷範子

某日。里山に突如「さんま」を焼く芳香。阿部和生氏の差し入れ。里山に海の幸の意外性が一句を生む。諧謔の面白さ。

彼岸花わつさと揺るる不破郡

川井秀夫

彼岸花は梵語で赤花と言う。彼岸明けを前に今や盛りのお出迎え。戦乱の地の幾万の魂が燃える。悉皆成仏 合掌。

楊梅の桃 配山とは可笑し

川井秀夫

大海人皇子・家康が将兵に戦勝を願ひ桃を配ったと言う故事。桃がヤマモモであったとは、吃驚しつつ納得。中七と下五の句またがりとして苦心の作。



癒しの散歩道

谷川 萬太郎

冬の訪れを仰ぎ見て知る中秋の叙情詩

深まりゆく秋の鼓動が聞こえて積雲高し その面影は夕暮れの山裾に密やかに迫る
肌寒い木枯らしが身体の中を吹き抜け そう遠くない冬の顔がそっと忍び寄る
冷たい秋風に脱ぎ捨てられた夏の形見は 秋色に染められ枯れ葉の中に散りゆきて
押し寄せる時の流れに身を委ねた晩秋は 冬將軍の影に怯えながら静かに南下する
切ない心包むよに厳かに晩鐘が秋霞に響きて 見上げる夕映えの空にかかる茜色の波雲よ



白夜に消えた春色の季節は哀し

時節が来てはまた行き過ぎる あの日から遠ざかる日々を重ね
振り返れば想い出燃やし盡した 青春のかげら懐かく目に浮ぶ
もう二度とは戻れないかもと 啼くな沖行く白いカモメたちよ
明るい未来に羽ばたく星の光が 飛び交う春螢のように輝いている
今はまだはるか遠い春だけど 出会うその時に又あの空で会おう

ならやま 茶 論

「逢うは別れの…」

竹本 雅昭

翁：おいおいあんたも早よ跳んで行かんかいな。

蛙：ええそうしようと思てますねんけど、お宅の顔をどっかで見かけたように思いまして。

翁：そりゃあ、わしだって、この沼地を時々ウロウロするからな。それよりこの稲穂をかじったらあかんで、田植えした小学生が収穫を楽しみにしてるからな。

蛙：ええ、それは重々心得てます。それよりなんでここへきやはったんです。まさか私らをザリガニの釣餌にしようと思たはるんと違いまっしゃろな。

翁：あほなことを、そんな暇おまへんわ。
しゃあけんどうあんたらはよう跳躍するな、
体長の何倍かいけるやろ。さぞ気持ちええことやろな。

蛙：えゝ私も大分年齢をとりましたけど、
若い頃は「カモメのジョナサン」じゃないけど、美しいフォームで誰よりも

遠くへと自慢でしたよ。そりゃあ食事
も忘れる位懸命にやりましたよ。

翁：そうか素晴らしい思い出やな。ところでジャンプして着地点に槍のようなもんがあったらどうすんの。

蛙：そんなもん簡単簡単、素早く「シライひねり」で安全に着地ですわ。

翁：それはすごい技やないか、よう骨折せんこっちゃな。

蛙：そないなったら後の事頼みますわ。

翁：さっきから青い目をキョトキョトさして塩辛トンボが聞いてるみたいや、いざという時は緊急連絡たのむよ。



Gallery

ならやま



- | | | |
|------|--------|----------------|
| 水彩画 | (山本妙子) | 「さんまおいしかったね」 |
| 陶芸 | (小島武雄) | 「座り猫」 |
| | | 「伏せ猫」 |
| クラフト | (大澤教男) | 「柴犬」 |
| | | 「プードル」 |
| クラフト | (田中克彦) | 「タヌキ」 |
| | | 「トンボ、セミ、テントウ虫」 |

▲「トンボ、セミ、テントウ虫」(田中克彦)

▼「さんまおいしかったね」(山本妙子)



▼「座り猫」(小島武雄)



▼「柴犬」(大澤教男)



▼「タヌキ」(田中克彦)



▼「伏せ猫」(小島武雄)



▼「プードル」(大澤教男)



ならやま景観整備

活動予定日

11月	7(木)	14(木)	21(木)
12月	28(木)		
12月	5(木)	12(木)	19(木)
12月	26(木)		

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に
広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

アクセス

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：27発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」で下車
徒歩7分



- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）
- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。
- ◆ 連絡先：木村 裕

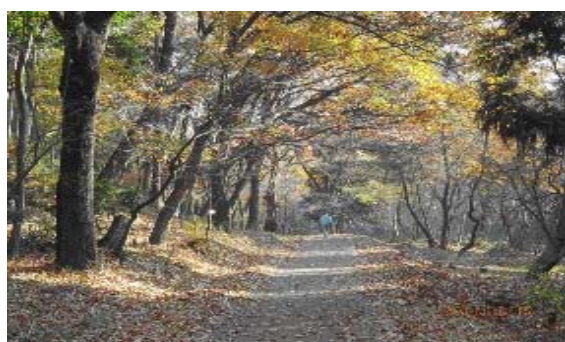


11月7日

- <里山Gr> 第五地区 通路整備および竹林整備
- <農園Gr> 玉葱畑整備・植付け準備、
豌豆畑の準備
- <景観Gr> BC、彩の道草刈り
ビオトープ園草取り整備
ならやま池生物調査

11月14日

- <里山Gr> 第五地区 通路整備および竹林整備
- <農園Gr> 玉葱植え付け、菜花などの移植、
豌豆の播種
- <景観Gr> BC周辺、第5地区
ビオトープ園花苗移植・池の整備



11月21日

- <里山Gr> 第五地区 通路整備および竹林整備
ホダ木用コナラの伐採作業
薪小屋作り・薪作り
ナラガレ対策の実施
- <農園Gr> 豌豆の播種、堆肥づくり
- <景観Gr> BC、彩の道草刈り
倉庫整理
第1、第2花園施肥草取り
ならやま池生物調査

11月28日

- <里山Gr> 第五地区 通路整備および竹林整備
ホダ木用コナラの伐採作業
薪小屋作り・薪作り
ナラガレ対策の実施
- <農園Gr> 玉葱の1回目の追肥
堆肥づくり
- <景観Gr> ならやま大通り整備
皇帝ダリア刈り取り、彼岸花移植
池の整備



行事案内

11月例会 歴史・文化クラブ共催 平群の郷を巡る

深まりゆく秋、時をめぐる色彩の風景を愛で、寒菊の田園のなか、古代遺跡を巡ります。

- 1, 日 時：11月12日(火)
- 2, 目的地：平群の郷
- 3, 集 合：近鉄南生駒線竜田川駅AM10:00
*奈良線生駒駅乗換 王寺行乗車
9:23分・9:38分発に乗車下さい。
- 4, コース：(平坦道 約 7km)
PM 3:30頃 解散予定
- ①鳥土塚古墳 ②石床神社(旧・新)
- ③消渴神社 ④西宮古墳(昼食)
- ⑤平群神社 ⑥檜本神社
- ⑦長屋王墓・吉備内親王墓 ほか
- 5, 準 備：弁当持参・飲み物・軽装など
- 6, 担 当：寺田 孝・川井秀夫・弓場厚次

12月例会 秋季ハイキング(予告) 紅葉の「正暦寺」へ歩く

- 1, 日 時：12月9日(月)
- 2, 集 合：奈良交通バス 近鉄奈良駅 10時30分
- 3, コース：約8.5km
近鉄奈良駅(バス) 森本→弘仁寺→正暦寺→
円照寺(バス) 近鉄奈良
- ※ ハイキング終了後 奈良駅周辺にて忘年会
- ※ 詳細は、会報12月号にてお知らせします。
- ※ 担 当：境 寛・八木順一



歴史文化クラブ 研修会のご案内



12月の研修会は、「奈良市内の見学と座学」です。午前中は、東大寺再建にかかわった重源上人や公慶上人ゆかりの五劫院と、東大寺ミュージアムを巡ります。午後は、中小企業会館の会議室で座学を行います。また、この機会に、来年度の活動計画についてフリー・トークも予定しています。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

- 1, 日 時 12月14日(土) 10時
- 2, 集合場所 近鉄奈良駅 行基広場
- 3, 連絡先 歴史文化クラブ 事務局
古川 祐司

「忘年会」のご案内

この1年を振り返りながら、会員相互の一層の懇親をはかりましょう。

- 1, 日 時：12月9日(月) 16:30~18:30
- 2, 場 所：近鉄奈良駅すぐ

「和ダイニング花小路」

奈良市小西町23 (花小路の2階)

0742-23-9551

- 3, 会 費：4,000円
- 4, 担 当：塩本勝也



- ①会員動向、会計報告（会員は144名）
- ②例会、自然教室、ならやま等の活動報告
- ③奈良県協賛イベントの今後の取組について
- ④ナラ枯れ調査結果に基づく今後の対応策(2)
- ⑤第5地区の整備計画と進捗状況について(2)
- ⑥新春講演会の講師・テーマの内定について
- ⑦ネイチャーなら11月号編集内容について
- ⑧来年度の助成金の申請と枠組みについて
- ⑨10～12月の行事予定の確認、その他

ナス
クラブ
より

編輯子一ム・代表 鈴木 末 一